

「お茶大インデックス」（雇用環境整備指標）を用いた教育研究機関の雇用環境評価 2019 年度 結果

「お茶大インデックス」を用いた教育研究機関の雇用環境評価を実施した。調査概要は以下の通り。

調査実施日：2020 年 1 月 21 日（火）～2020 年 2 月 21 日（金）

調査方法：Excel で回答可能な「お茶大インデックス」をメールにて送付し、Plone を用いて評価結果と活用方法についてのアンケート調査を実施。

配布機関：科学技術振興調整費・女性研究者支援モデル育成事業（H18～H22）採択 55 機関、及び女性研究者研究活動支援事業選定（H23～H29）45 機関の計 100 機関のうち連絡が可能であった 97 機関

回収数：38 機関（回収率 39.2%）

お茶大インデックス評価結果 38 機関の回答割合と全体的経年変化

38 機関のお茶大インデックス評価結果について、50 項目それぞれに 3 つの選択肢の回答割合を算出した。各項目の回答割合を用いて図 1 を作成した。

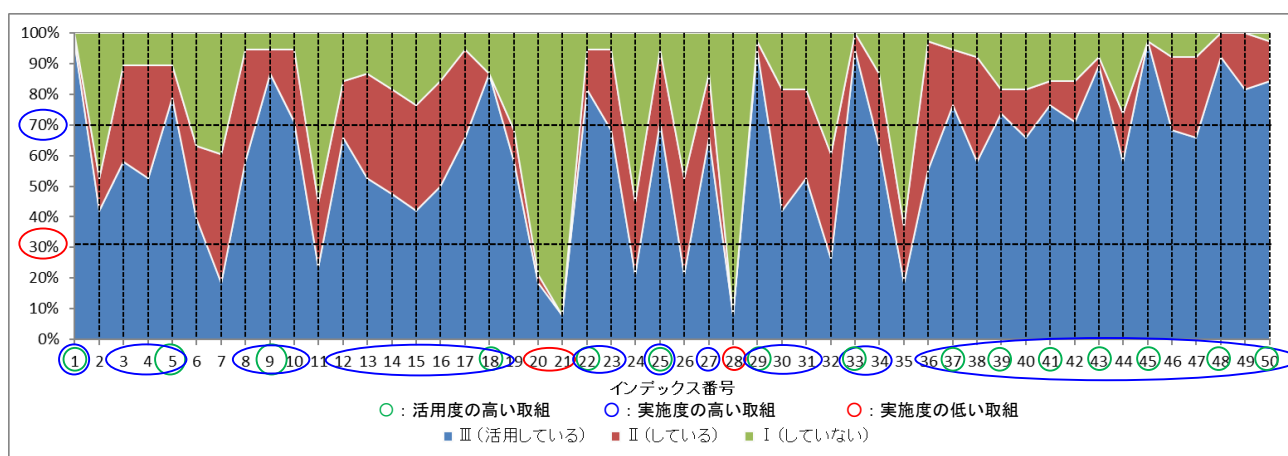


図 1. お茶大インデックス評価結果（全 38 機関、回答割合）

38 機関における活用度の高い取組（『Ⅲ.活用している』の回答が多い項目）、実施度の高い取組（Ⅲ.活用している、Ⅱ.している）、低い取組（Ⅰ.していない）は以下の通り。（カッコはインデックス番号を示す）

活用度の高い取組（『Ⅲ.活用している』の回答割合が 70%以上）

※赤字は前回調査時（2017 年度）には含まれなかった項目を示す。

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------------|
| (1) 女性研究者を支援する組織の設置 | (37) 女性研究者を支援するための他キャンパス・他機関・地域との連携 |
| (5) 女性を積極的に採用するシステムの導入 | (39) 女子中高生向け体験授業（学内・学外）の開催 |
| (9) 子育てを支援するための予算の配分 | (41) 女子中高生向けロールモデルとの交流会の開催 |
| (18) 保育施設の設置 | (43) 全職員向け女性研究者を支援するための情報発信 |
| (22) 育児期における柔軟な勤務体制の導入 | (45) ハラスメントを防止するための取組 |
| (25) 『次世代育成支援対策行動計画』の周知 | (48) 男女共同参画に対する意識啓発 |
| (29) 子育て中の女性研究者を支援するための研究補助者の配置 | (50) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた意識啓発 |
| (33) ホームページによる情報発信 | |

実施度の高い取組（『Ⅲ.活用している』に『Ⅱ.している』を加えた場合の回答割合が 70%以上）

※赤字は前回調査時（2017 年度）には含まれなかった項目を示す。

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| (1) 女性研究者を支援する組織の設置 | (10) 業務を効率化するための取組 |
| (3) 公正で透明性の高い公募を行うためのシステムの導入 | (12) 定時帰宅日の設定 |
| (4) 客観的に業績を評価するシステムの導入 | (13) 男性が育児休業制度を積極的に取得することを周知 |
| (5) 女性を積極的に採用するシステムの導入 | (14) 実労働時間に関する調査 |
| (8) 女性研究者における研究分野別・職階別の女性比率の把握 | (15) 全教職員を対象としたワーク・ライフ・バランスに関する調査 |
| (9) 子育てを支援するための予算の配分 | (16) 女性休養室の設置 |

(17) 授乳室・多目的トイレの設置	(38) 女性研究者間のネットワーク構築
(18) 保育施設の設置	(39) 女子中高校生向け体験授業（学内・学外）の開催
(22) 育児期における柔軟な勤務体制の導入	(40) 女子中高校生向けロールモデル情報の発信
(23) 育児期における職務軽減制度の導入	(41) 女子中高校生向けロールモデルとの交流会の開催
(25) 『次世代育成支援対策行動計画』の周知	(42) 女子中高校生向けイベント・シンポジウムの開催
(27) 子育てと研究のための相談窓口の設置	(43) 全職員向け女性研究者を支援するための情報発信（メール・新聞・掲示）
(29) 子育て中の女性研究者を支援するための研究補助者の配置	(44) 子育て支援に関する勉強会・交流会の開催
(30) 女性研究者を支援するためのメンター制度の導入	(45) ハラスメントを防止するための取組
(31) 子育て中の女性研究者のキャリアアップ支援	(46) 男性向け子育て支援に関する意識啓発
(33) ホームページによる情報発信	(47) 管理職向け両立支援に関する意識啓発
(34) 子育て支援のための冊子作成	(48) 男女共同参画に対する意識啓発
(36) 女性研究者を支援するためのロールモデル情報の発信	(49) ダイバーシティを理解するための意識啓発
(37) 女性研究者を支援するための他キャンパス・他機関・地域との連携	(50) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた意識啓発

実施度の低い取組（『Ⅰ.していない』の回答割合が70%以上）

(20) 学童保育施設の設置（他機関との連携も可）	(28) 学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制の導入
(21) 子育てを支援するための学内宿泊施設の整備	

「Ⅲ.活用している」の回答割合が70%以上を示した項目は、前回調査（2017年度）にも確認されたインデックス番号（1）、（9）、（18）、（22）、（25）、（29）、（33）、（37）、（43）、（45）、（48）の11項目と、今回新たに（5）女性を積極的に採用するシステムの導入、（39）女子中高校生向け体験授業（学内・学外）の開催、（41）女子中高校生向けロールモデルとの交流会の開催、（50）ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた意識啓発の4項目が加わり、計15項目となった。

実施度の高い取組（『Ⅲ.活用している』に『Ⅱ.している』を加えた場合の回答割合が70%以上）は、前回調査（2017年度）においても挙げられた35項目に加え、インデックス番号（14）実労働時間に関する調査、（15）全教職員を対象としたワーク・ライフ・バランスに関する調査、（44）子育て支援に関する勉強会・交流会の開催の3項目が加わって計38項目となり、全50項目のうち7割以上が実施されていることがわかった。

実施度の低い取組は前回調査（2017年度）と変わらず「学童保育」、「宿泊施設の設置」、「奨学金制度の導入」であった。

上記の結果から、女性研究者支援事業に採択された教育研究機関では雇用環境の整備が概ね定着し、各取組が実効性をもって継続的に実施されていることが確認できた。一方で、子育て中の学生への経済的支援、設置場所の確保や多くの資金が必要な取組については、支援活動が活発となった現在においても実施が困難、あるいは実施度が低いため、新たな支援方法を模索・提案する必要があると言える。

お茶大インデックス 評価の経年変化

前回調査（2017年度）に引き続き、各年度における回答機関の総合得点平均値の推移とお茶大インデックスを「組織」、「勤務体制」、「子育て支援」、「研究教育支援」、「情報支援」、「次世代育成の取組」、「意識啓発の取組」の7項目に分類・集約し、これらの得点平均値における8年間の推移（2018年度は調査未実施）を確認した。2011年度から2019年度における総合得点割合と大分類した7項目における得点割合（いずれも100%は満点）の平均値を算出し、図2を作成した。

2019年度の総合得点割合は、前回調査（2017年度）から6.7点増の69.1点であった。評価項目を大分類して7項目に集約した結果について、前回調査（2017年度）と2019年度を比較すると、「組織」は61.5%から8.8%増の70.3%に、「勤務体制」は10.1%と大幅増の64.3%に、「子育て支援」は6.6%増の54.2%に、「研究教育支援」は3.1%増の61.4%に、「情報支援」は4.4%増の72.8%に、「次世代育成の取組」7.9%増の72.8%に、「意識啓発の取組」においては8%増の86.3%となり、いずれも得点割合は増加傾向を示した。特に「意識啓発の取組」は調査開始時の2010年度から前回調査（2017年度）にかけて大幅に増加しており、今年度においては、大分類した7項目の中でも女性研究者支援事業実施機関の約9割が実施している取組であり、各機関においても非常に実施率の高い項目であることがわかる。

総合得点割合も右肩上がりに増加していることから、女性研究者支援事業実施機関においてはこの 10 年間で着実に雇用環境が整備され、支援活動は推進・定着しつつあると言える。

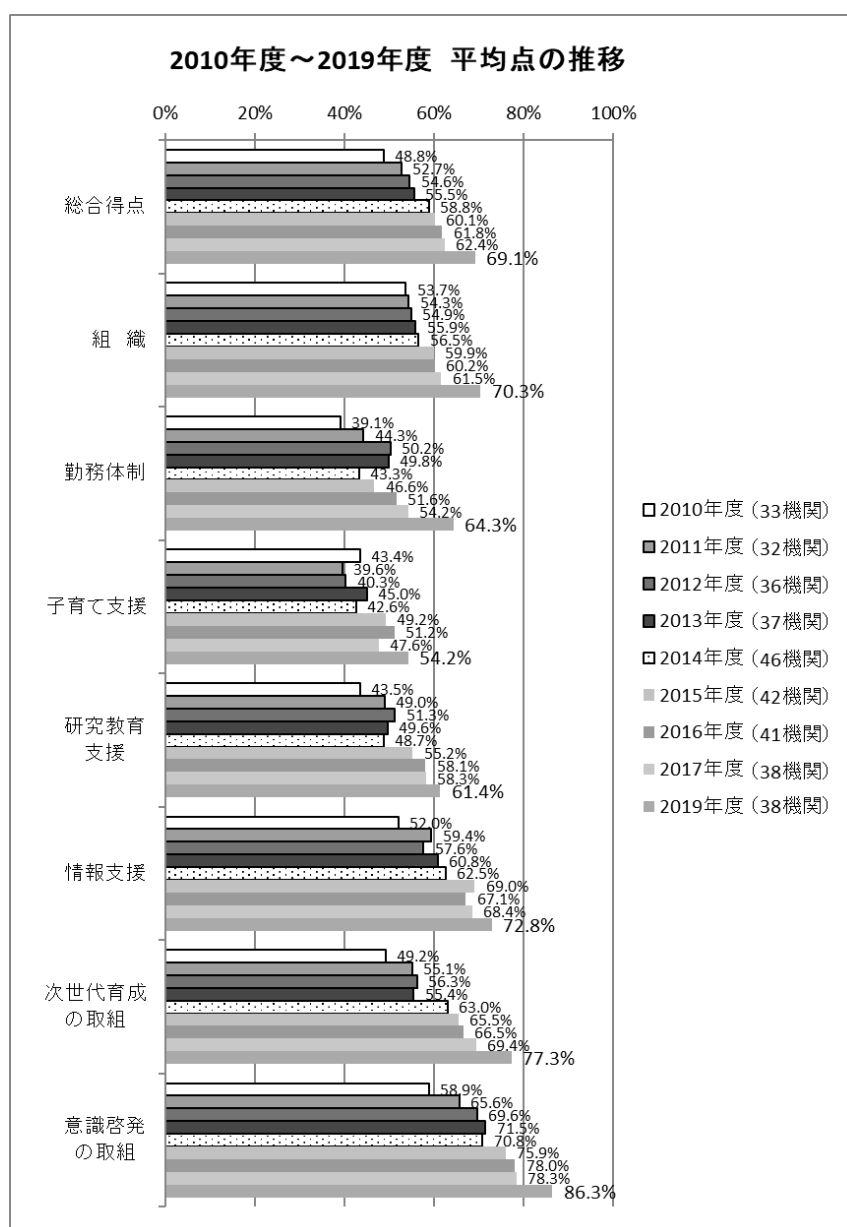


図 2. お茶大インデックス評価（得点割合）の経年変化（全 38 機関、得点割合）

お茶大インデックス評価結果 総合得点上位 10 機関・下位 11 機関の特徴

38 機関のうち、インデックスの総合得点上位 10 機関（平均 82.2 点 /100 点中）の回答割合を用いて図 3 を作成し、評価得点下位 11 機関（平均 52.5 点/100 点中）の回答割合を用いて図 4 を作成した。

総合得点上位 10 機関（図 3）の結果を見ると、インデックス番号（20）学童保育施設の設置、（21）子育てを支援するための学内宿泊施設の整備、（28）学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制度の導入、は「I.していない」の回答が多いことがわかる。この結果は、調査を開始した 2010 年度からあまり変化しておらず、女性研究者支援事業開始時から 10 年ほど経過する今現在においても実施困難な取組であることがわかる。なお、前回調査時（2017 年度）にはインデックス番号（6）女性を管理職に登用するシステムの導入において「I.していない」の回答が多数認められたが、今回の調査では総合得点上位機関における実施率が高くなった。一方で、インデックス番号（24）在宅勤務を可能にするユビキタス環境整備（ネット対応、TV 会議等）、（35）子育て中の女性研究者を支援するための人材バンク構築については、今回調査において「I.していない」の回答が多数認められた。

この結果から、総合得点上位機関においては、一定の雇用環境整備や支援活動は継続しつつ、管理職女性を輩出する仕組みの導入が加速しつつあると言える。一方、学生を対象とした育児にかかわる経済的支援や学内宿泊施設の整備、学童保育の設置については、支援活動が活発になった現在においても未だに困難な取組であることが示された。

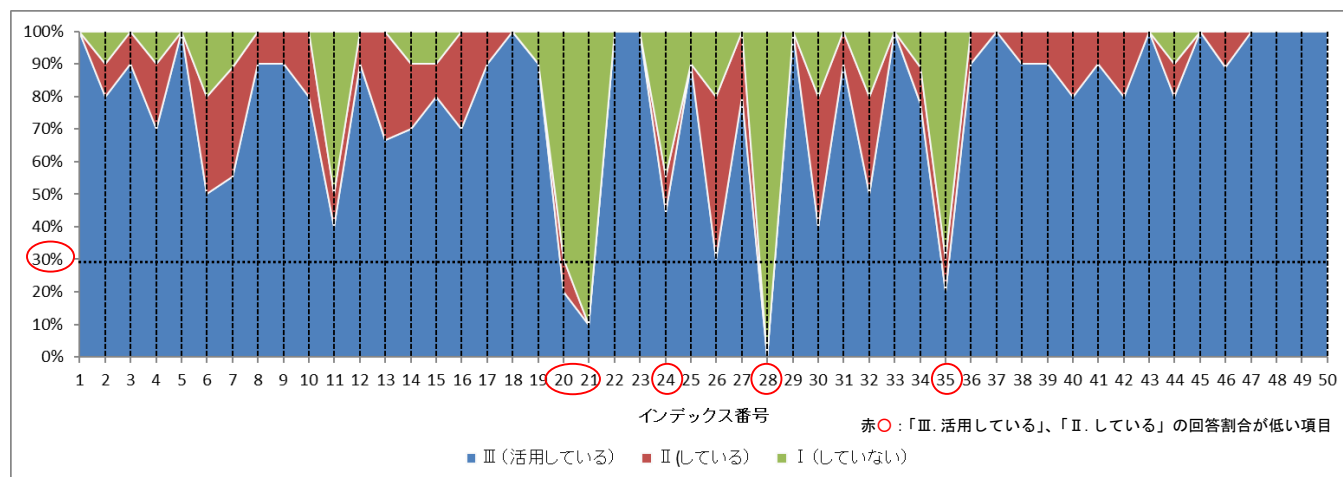


図 3. お茶大インデックス評価結果 (得点上位 10 機関)

総合得点下位 11 機関 (図 4) の結果を見ると、インデックス番号 (2)、(6)、(7)、(11)、(12)、(15)、(16)、(20)、(21)、(24)、(26)、(28)、(32)、(35)、(39)、(40)、(41)、(42) の 18 項目を除いた計 32 項目において「Ⅲ.活用している」、「Ⅱ.している」の回答割合が 70%を超えており、総合得点が低い機関においても 50 項目のうち 6 割以上は実施できていることがわかる。特に、「意識啓発の取組」については、全ての項目において 70%以上の実施率を示しており、総合得点が低い機関においてもこれらの取組は導入・実施がしやすい取組であると言える。昨年度調査時 (2017 年度) から今回新たに回答割合が 70%を超えたのは、インデックス番号 (5)、(10)、(13)、(14)、(19)、(34)、(38)、(44)、(46)、(47)、(50) の 11 項目であり、多数の支援活動がこれまで以上に実施されている様子が見える。

前回調査時 (2017 年度) において、インデックス評価得点の平均点は上位機関 76.7 点、下位機関 42.0 点であったが、今回の調査 (2019 年度) におけるインデックス評価得点の平均点は上位機関が 5.5 点増の 82.2 点、下位機関においては 10.5 点増の 52.5 点となるなど、女性研究者支援事業を実施した機関においては、全体的に雇用環境が整備されつつあり、上位機関と下位機関における整備状況の差異も小さくなりつつあることがわかる。

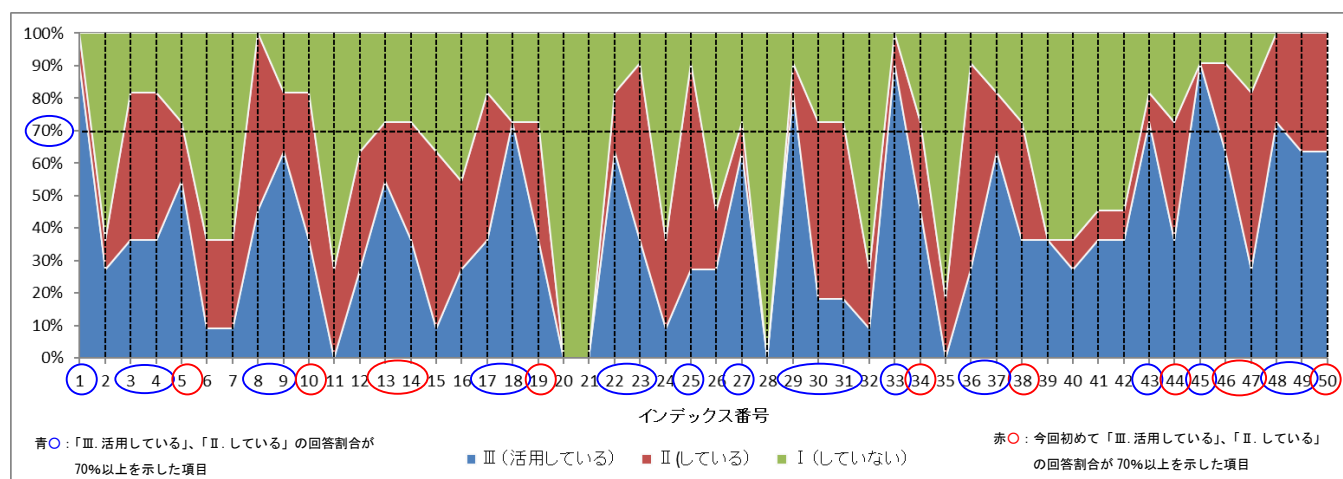


図 4. お茶大インデックス評価結果 (得点下位 11 機関)

お茶大インデックス評価結果 38 機関における支援バランスの特徴

お茶大インデックスの「組織」、「勤務体制」、「子育て支援」、「研究教育支援」、「情報支援」、「次世代育成の取組」、「意識啓発の取組」の7項目の得点バランス、すなわち支援のバランスがどのようなものであるかを明らかにするために、大分類された7項目それぞれに得点割合（100%は満点）の平均値を算出した。結果を図5に示す。

7項目のうち「意識啓発の取組」の得点割合が昨年と同様に最も高く、次いで「次世代育成の取組」、「情報支援」の得点割合が高くなった。「次世代育成の取組」はここ数年大きなバラツキが認められ、実施できている機関とできていない機関に差がみられ、前回調査時（2017年度）と同じ傾向を示した。そこで、2019年度も38機関それぞれに算出した7項目の支援バランス（得点割合）を用いてクラスター分析（類似性の高いものをグルーピングする方法）による解析を行った。

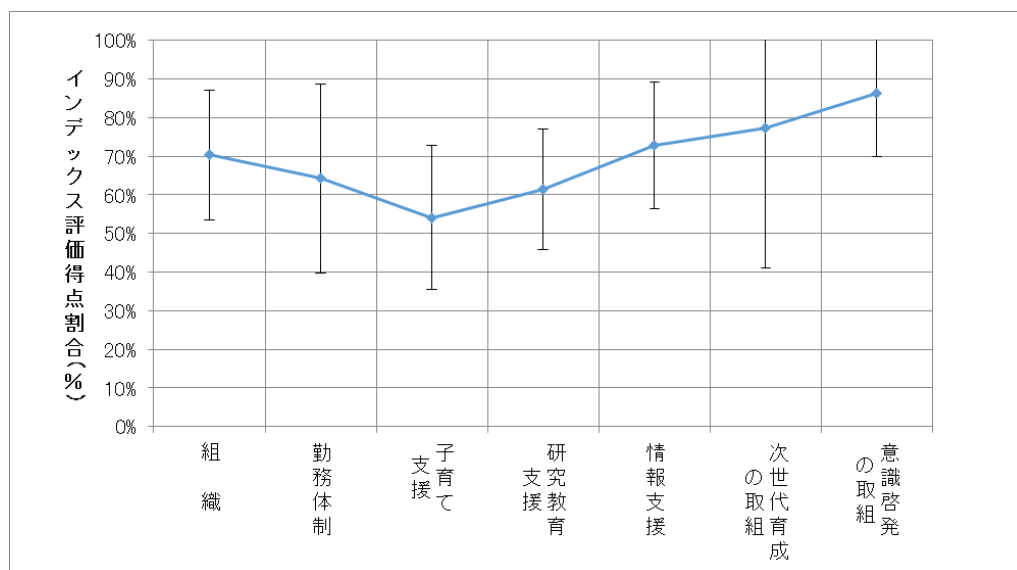


図5. お茶大インデックス 支援バランス（38 機関における評価得点割合の平均値）

その結果、図6に示す通り、支援バランスの特徴により38機関を4グループに分類することができた。

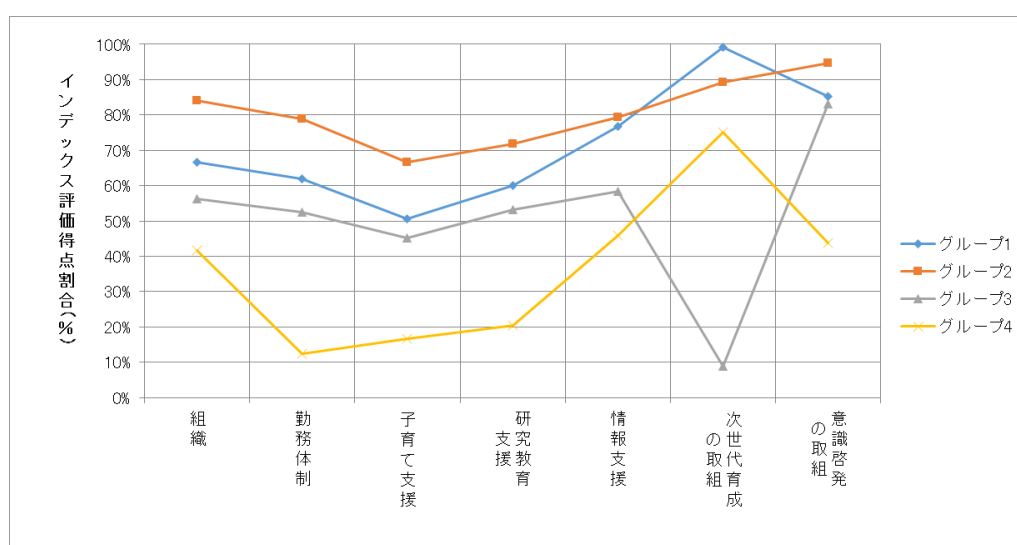


図6 お茶大インデックス評価 38 機関における支援バランスの特徴

各グループを構成する機関の特徴は次に示す通りである。

【グループ1】 次世代育成の取組に特に力を入れている機関（14 機関）

4 グループの中でも特に「次世代育成の取組」が高い特徴を持つグループである。このグループは「次世代育成の取組」実施率が 99%以上と他のグループと比較しても群を抜く実施率であり、総合得点平均値も 69.5 点と高いことがわかる。

14 機関中 9 機関が国公立大学、4 機関は学生数が非常に多く大都市にある私立大学（共学）、大学以外の研究機関 1 機関である。なお、お茶の水女子大学もこのグループに属している。

【グループ2】 全体的に支援が充実している機関（15 機関）

4 グループの中でも「次世代育成の取組」を除くすべての項目において実施率が非常に高いグループである。中でも「意識啓発の取組」実施率は 94.6%と非常に高く、総合得点平均値も 80.2 点と非常に高い。

総合得点上位 10 機関がこのグループに属しており、15 機関中 14 機関が国公立大学、1 機関は私立女子大である。

【グループ3】 「次世代育成」の取組が弱く、「意識啓発」に力を入れている機関（7 機関）

支援項目の「次世代育成の取組」の実施率が 8.9%と低いものの、「意識啓発」の実施率は 83%と高く、次世代育成よりも意識啓発活動に力を入れているグループである。

総合得点平均値は 54.6 点であり、国公立大学 4 機関、大学以外の研究機関 2 機関、私立大学（共学）1 機関で構成されている。

【グループ4】 「勤務体制」、「子育て支援」、「子育て支援」の取組が弱く、「次世代育成」に力を入れている機関（2 機関）

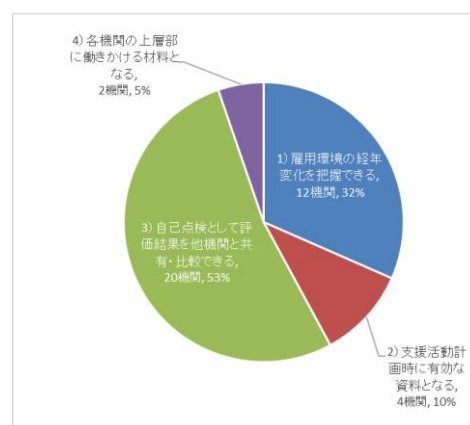
4 グループの中でも総合得点平均値は 34 点と最も低いが、「次世代育成の取組」の実施率は 70%以上を示すグループである。このグループは、女性研究者支援事業に採択され事業終了から数年経過した機関で構成されている。前回調査（2017 年度）においてもこの「グループ 4」に類似したグループ（総合得点平均値：46 点）が 6 機関で形成されていたものの、今回調査では一部機関がグループ 1 や 3 に移行し、総合得点平均値の低い機関数も減少したことから、雇用環境の改善・底上げが順調に進んでいると推察できる。

お茶大インデックス評価結果の活用方法

自機関においてお茶大インデックスをどのように活用しているかを調査した結果を図 7 に示す。

今回、「お茶大インデックス」を用いた教育研究機関の雇用環境評価に協力を賜った 38 機関において、お茶大インデックスの評価結果の活用方法として「自己点検として評価結果を他機関と共有・比較できる」が 20 機関（53%）と最も多く、雇用環境の経年変化を把握するだけでなく、他機関と共有・把握することで各機関の取組状況を確認し、さらなる高みを目指して支援活動を展開する意気込みを感じ取ることができる。

この結果は、今回の調査結果において全体的に評価得点が高くなった理由の一つとしてとらえることができる。



お茶大インデックスの活用方法（n=38）

お茶の水女子大学における お茶大インデックス評価結果

お茶の水女子大学は、女性研究者支援モデル育成事業（2006 年度～2008 年度）を経て、2009 年度より本学独自の事業として雇用環境の整備と研究者支援を継続・発展させてきた。また、2014 年度には、本学と芝浦工業大学、物質・材料研究機構の 3 機関が女性研究者研究活動支援事業（連携型）に共同申請し、採択されている。本学における 2011 年度の総合評価得点は 62 点、2012 年度は 68 点、2013 年度は 70 点、2014 年度と 2015 年度は 72 点、2016 年度と前回調査時（2017 年度）は 75 点であり、2019 年度は 76 点となった。得点が増加した項目と理由は次のとおりである。

(49) ダイバーシティを理解するための意識啓発

⇒「している」から「継続している」に変更。

学内にてLGBTにかかわる講演会などを複数回開催し、2019年度も引き続き開催しているため。

38 機関におけるお茶大インデックス評価結果 まとめ

女性研究者支援事業が開始されて10年以上となる。2010年度より実施している「お茶大インデックス」を用いた教育研究機関における雇用環境評価は2018年度より評価項目の修正を検討し、新たな指標を提案するために「お茶大インデックス」を用いた雇用環境調査を一時休止し、2018年度はこれまでの蓄積データと分析結果を報告書としてまとめ、グローバルリーダーシップ研究所2018年度成果報告書に掲載して発信した。しかし、研究者支援事業を実施する機関の増加や好事例が増加しているこの状況を引き続き把握・分析し、広く社会に情報提供し続けることがインデックスを開発した本学の責務であるとの考えに至り、2019年度もこれまでと同じ「お茶大インデックス」を用いて雇用環境評価を実施することとなった。

2018年度から2019年度にかけて、本学はインデックスの改修を目指し、これまで調査にご協力賜った機関の皆様よりお寄せいただいたご意見、ならびにこれまでに公表された女性研究者支援に関わる取組の事後評価報告書の全内容の確認し、成果の確認と効果的な取組を取りまとめる作業を行った。その結果、新たな支援方法や制度、より効果的な取組を評価できるよう、評価項目の文言修正・追記等が必要であることが明らかとなった。2019年度の調査において、お茶大インデックスの総合得点や最高得点の向上が確認された。また、各機関が切磋琢磨しつつ、女性が働きやすい雇用環境を整備し、男女共同参画社会の実現に向けて着実に進んでいることも確認できた。本調査を実施するにあたり、全国の多くの教育研究機関の皆様にご協力を賜った。心より感謝の意を表するとともに、現在進めているインデックスの改修とグローバルな調査への発展、データのさらなる収集と分析、結果のさらなる発信・波及を目指す。

【付録】 お茶大インデックス評価結果 総合得点一覧

お茶大インデックスの評価結果(表1)を総合得点の降順に示す。総合得点の平均点は69.1点(前回調査時より6.7点増)、最高点は85点(3点増)、最低点は33点(11点増)であった。

表1. お茶大インデックス 評価結果 (総合得点降順)

ID	「お茶大インデックス」得点							
	総合得点	1.全学的な支援体制		2.女性研究者支援		3.情報支援	4.意識啓発	
		組織	勤務体制	子育て支援	研究教育支援	情報支援	次世代育成の取組	意識啓発の取組
060	85	17	11	8	17	9	8	15
024	84	17	10	8	16	10	7	16
055	84	16	10	8	14	12	8	16
076	84	16	9	10	16	10	8	15
047	82	16	8	8	16	10	8	16
070	82	13	9	10	17	9	8	16
017	81	16	12	6	16	10	5	16
008	80	16	11	7	16	9	6	15
030	80	14	10	8	18	8	8	14
045	80	16	5	8	15	12	8	16
021	79	17	7	8	15	10	8	14
035	78	13	11	6	18	9	5	16
057	77	11	10	7	15	12	8	14
082	77	13	11	6	16	10	7	14
お茶の水女子大学	76	14	9	7	14	11	8	13
062	76	13	10	3	15	11	8	16
033	75	14	7	10	14	8	8	14
002	73	14	8	6	13	8	8	16
067	72	13	11	9	13	7	5	14
068	72	12	8	7	14	11	8	12
077	71	11	9	7	15	7	8	14
054	70	10	4	8	14	10	8	16
061	67	10	9	6	11	7	8	16
007	66	10	6	10	13	9	7	11
018	66	10	5	8	15	7	8	13
079	66	12	9	3	15	9	8	10
083	66	17	4	5	8	10	8	14
006	64	13	5	4	10	9	8	15
016	64	13	9	5	14	7	0	16
036	63	11	8	4	13	8	8	11
049	62	13	10	4	14	6	0	15
069	60	13	5	3	13	11	1	14
084	57	8	9	5	12	5	4	14
039	53	6	6	7	14	7	0	13
022	47	7	2	8	11	6	0	13
081	39	11	3	6	4	7	0	8
059	35	8	0	1	3	4	8	11
058	33	7	3	3	6	7	4	3